

第2章 新卒訪問看護師の基本的な行動目標

新卒訪問看護師が社会の期待に応えることのできる訪問看護師に成長することを目指し、概ね採用から1～2年間に習得したい「基本的な5つの行動目標」を設定しました。この「行動目標」は、「きらきら訪問ナース研究会」発行の「地域で育てる新卒訪問看護師のための包括的人財育成ガイド」を引用しました。

◆新卒訪問看護師の基本的な行動目標

1. チームで健やかに働こう
2. 社会人としての常識を身につけよう
3. 個別の看護を展開しよう
4. 自ら進んで学習しよう
5. 基本的な看護技術について自信を持とう

また、其々の目標ごとに、「訪問看護事業所」及び「新卒訪問看護師」が行う具体的な行動（アクション）が記載してあります。

行動目標1 チームで健やかに働こう

新卒訪問看護師が自立した訪問看護師へと成長をするために、本人はもちろん、先輩看護師だけでなく事務職などを含めた全職員が、健やかな状態で過ごしましょう。

1 訪問看護事業所が行うこと

- (1) 新卒訪問看護師を育成する目的を全職員が理解する
- (2) 訪問看護事業所の訪問看護記録を見直し、整備する
- (3) 教育の段階や成長のステップについて全職員が知っておく
- (4) 皆が話しやすい雰囲気をつくる
- (5) 新卒訪問看護師の席は質問しやすく、全体の動きが見える位置にする
- (6) 新卒訪問看護師に対して、成長を焦らなくてよいという姿勢で関わる
- (7) 先輩看護師間で新卒訪問看護師の成長状況を把握できる方法をもつ
- (8) 全職員が新卒訪問看護師の育成を通して学びを深める
- (9) 先輩看護師が新卒訪問看護師の育成に関して検討する場を設ける
- (10) 新卒訪問看護師同士が集まることができる機会を知っておく
- (11) 新卒訪問看護師が卒業した看護教育機関とその後の成長を共有する

2 新卒訪問看護師が行うこと

入職直後は、何もかもわからないのは当然です。求められることの責任感と自分のできなさに直面し、困惑することもあるでしょう。一方で、新卒訪問看護師が同行訪問して気づいたことや考えたことは、先輩看護師にとっても貴重な意見となります。先輩看護師たちに、その気付きを素直に伝えてほしいと思います。その際、チームで働く者として伝える相手の心象に配慮することも学びましょう。

- (1) 自分が経験したことを、先輩看護師と振り返り、次につなげる
- (2) 出来ないこと、難しい、不安だと感じていることを素直に言葉で表現する
- (3) 先輩看護師以外にも相談できる相手をもつ
- (4) 他の新卒看護師と交流する（就職先を問わず）場を知っておく
- (5) 自分ならではのストレスマネジメント方法をもつ

行動目標2 社会人としての常識を身につけよう

個々の家を訪問する訪問看護師は、社会人としてのマナーや社会通念を学ぶ必要があります。社会人としてのマナーには名刺の渡し方や電話の対応方法、FAX や Mail のマナー、お葬式などのライフイベント時のマナーなども含まれます。また訪問看護をすることで、対象それぞれの家庭の価値観に触れることとなります。個々の家庭の価値観に基づいたマナーや習慣、こだわりをまずは受け止め、それを尊重する看護の視点をもつことを目指します。

1 訪問看護事業所が行うこと

- (1) 情報の取り扱い方、電話・メールのマナー等、訪問看護事業所の「常識」について見直しをする
- (2) 訪問看護事業所の「常識」を新卒訪問看護師に提示できるようにする
- (3) 必要なマナー教育に訪問看護事業所内外の研修や書籍を活用する
- (4) 相手を尊重した多職種連携の方法を伝える
- (5) 同行して、訪問時の一般的なマナーを伝える
- (6) 同行して、各家庭の価値観に基づく「常識」について伝える

2 新卒訪問看護師が行うこと

先輩看護師から教えてもらうことも必要ですが、まずは社会人として、訪問看護師としての常識を身につけるため、自分自身の常識やマナーを見直しましょう。また、価値観は多様です。一人一人が捉える常識は違うものであることにも気づいていきましょう。

- (1) 社会人であるという自覚と態度を持って勤務する
- (2) 先輩看護師に積極的に報告・連絡・相談をする
- (3) 個人情報の取り扱いや電話・メールの出し方など訪問看護事業所での取り決めを知る
- (4) 一般的な訪問看護のマナーを知る
- (5) 各家庭の価値観に基づく「常識」を知る
- (6) 社会の出来事や動きに関心を向ける

行動目標3 個別の看護を展開しよう

訪問看護は看護の対象者の状態や疾患、環境が多様で、個別性の高い看護を提供することが求められます。まずは新卒訪問看護師が集中して看護を考えることが出来る環境を整えましょう。また、看護課題が複雑に絡み合った事例も多く、回答は一つではないこと、やり方はいくつもあることを伝え、先輩看護師が提供する看護の意図を新卒訪問看護師に知ってもらいましょう。訪問看護だけでなく、多職種が利用者の目標達成に向けてサービスを提供していることも伝えましょう。

1 訪問看護事業所が行うこと

- (1) 全職員は、新卒訪問看護師の多様な質問に真摯に応じる
- (2) 新卒訪問看護師の状況に応じて同行する看護師を決める
- (3) 利用者の多様な価値観に沿った看護や個別性を尊重することが大切であることを伝える
- (4) 同行訪問後は振り返りの機会を作り、気づいたことを話し合う
- (5) 同行訪問の振り返りを一緒にする先輩看護師は自分のアセスメントを伝える
- (6) 事例検討会等、新卒訪問看護師がアセスメントを表現する場をつくる
- (7) 多職種によるチームケアの中での訪問看護計画であるということを意識して伝える

2 新卒訪問看護師が行うこと

先輩看護師の思考と実践について見学と質問を繰り返しながら理解していく必要があります。そのなかで、自分が困ったり、わからなかったことなどは率直に聞くことのできるコミュニケーションスキルも身につけましょう。

- (1) 先輩看護師の思考と実践について見学と質問を繰り返し、理解するようにする
- (2) 自分が困ったり、わからないことは相手の心象に配慮しつつ率直に聞く
- (3) 本人や家族の話聞くことは大切な看護だと自覚する
- (4) 先輩看護師各々の看護技術や関わり方の違いについて、その理由を考える
- (5) 療養経過を踏まえた将来的な見通しについて先輩看護師と話し合う
- (6) 訪問前、訪問中、訪問後のそれぞれで訪問看護師の役割を考える

行動目標4 自ら進んで学習しよう

自ら学ぶ姿勢やその方法を身に付けることにより、個別性の高い看護を展開することにつながります。自立した看護師になるために、学習の仕方を身に付け、学び続ける環境を整えることが必要です。新卒訪問看護師だけでなく、職員全員が成長できる環境をつくりましょう。

1 訪問看護事業所が行うこと

- (1) 図書整備、インターネット等調べ物ができる環境を作る
- (2) 地域の医療機関や看護教育機関などと協力し、多様な学びの場づくりをする
- (3) 新卒訪問看護師と個別に面接をし、今学ぶべき内容とその方法を具体的に提示する
- (4) 新卒訪問看護師が学んだことを実践に活かせるように支援する
- (5) 新卒訪問看護師が学びやすい教材を提示する
- (6) 学び合う環境づくりをする

2 新卒訪問看護師が行うこと

- (1) 先輩看護師と一緒に自分の目標管理をする
- (2) わからない事を溜め込まないよう正直に率直に質問をする
- (3) 図書館の利用やインターネット等多様な方法で学ぶ
- (4) 積極的に振り返りの機会をもらい、活用する
- (5) 看護以外のことにも興味を持って学ぶ

行動目標5 基本的な看護技術について自信を持つ

看護技術には療養上の世話に関する技術（食事、排泄、保清等）と、診療の補助に関する看護技術（点滴、採血など）があります。どちらも新卒訪問看護師は不安を感じます。さらに訪問看護では実践する機会が少ない看護技術もあります。演習や実践ができるように配慮するとともに、新卒訪問看護師が手技のみに囚われないよう支援します。

1 訪問看護事業所が行うこと

必要な看護技術を「どこで」「誰と」「どのように」学ぶのかを、具体的に計画しましょう。「新卒訪問看護師の育成プログラム」を参考に活用しましょう。

- (1) 訪問看護事業所内で看護技術に関して、その提供方法や根拠などを話し合う機会を設ける
- (2) 在宅での看護技術のポイントをまとめ、教育に活用する
- (3) 訪問看護事業所で行う看護技術の提供頻度を整理して、技術を学ぶ順番を決める
- (4) 在宅で習得できる看護技術と医療機関等で習得できる看護技術を整理して研修計画を立てる
- (5) 行為の手順を教えることと、行為の意味を教えることの両方を心掛ける
- (6) 看護技術について予習、復習する時間を配慮する
- (7) 看護技術の習得状況を振り返る機会を設ける

2 新卒訪問看護師が行うこと

- (1) 自信があることとないことを先輩看護師に伝える
- (2) 看護技術練習の機会を繰り返し活用する
- (3) 優先的に習得が必要な看護技術を意識する
- (4) 実施した看護技術について、その都度、先輩看護師と振り返りをする
- (5) 疑問や不安に思ったことを先輩看護師に伝える